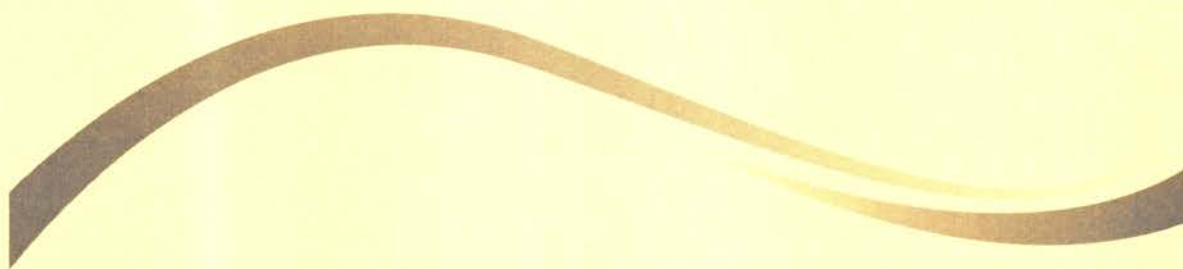


I 研究の概要



I 研究の概要

1. 研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
 - (1) これまでの研究の成果と課題
 - (2) 今年度の研究について
2. 研究を進めるにあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
3. 研究の枠組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
 - (1) 研究目的
 - (2) 研究内容
 - (3) 研究体制
 - (4) 研究計画

I 研究の概要

1. 研究主題設定の理由

(1) これまでの研究の成果と課題

本校では、平成 20 年度から 24 年度までの 5 年間、ICF（国際生活機能分類）の理念に学び、児童生徒の教育的ニーズを教育実践につなげる学校研究に取り組んできた。

保護者や担任の望み・願いだけでなく、児童生徒の「したい」「なりたい」という当面の自己像や生活像を「本人の願い」として捉え、そのニーズを反映した教育目標を設定し、児童生徒が活動性を向上させながら自己実現⁽¹⁾を目指していくための学習活動のあり方、教師の支援のあり方を検討した。その中で、児童生徒が活動性を向上させながら自己実現を目指すための指導・支援を行うためには、児童生徒の「内面」に目を向け、働きかけることが重要であると考え、「内面」の中で「要求」、「既有知識」⁽²⁾、「自己認識」⁽³⁾、「自己効力感」⁽⁴⁾の 4 つに着目した。

研究の成果として、教師の役割で大切なことは、児童生徒が身の回りの物事に対する知識や自己認識をより現実的なものに更新できるような学習活動を設定し、指導や支援を行うことであると学び、「知識と自己認識を探るための介入」と「知識と自己認識を修正・更新するための介入」を行うこととした。

一方で、これまでの 5 年間の研究では、主に個人に焦点を当てて「育ち」を見てきた側面が強く、研究の成果を教育課程に具現化する視点が弱かったことが課題として挙げられる。

(2) 今年度の研究について

これまでの研究の成果を活かしつつ、課題を解決するために「キャリア教育」の視点を取り入れることにした。「キャリア教育」は、中央教育審議会の答申で「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されている。また、キャリア教育の視点は、教育の在り方を幅広く見直す視点であり、小学部・中学部・高等部の各段階で大切にしたいことを確認し、学校全体で共有することで、教育課程の改善や日々の授業の充実改善が期待されている。

以上の経緯から、平成 25 年度は、文部科学省委託事業「特別支援教育に関する実践研究充実事業」を受託し、「キャリア教育の視点からの教育課程を小中高 3 学部の一貫性、系統性、関連性の側面から再考する」の主題で学校研究に取り組んだ。それを踏まえて、平成 26 年度は、文部科学省委託事業「キャリア教育・就労支援等の充実事業」を受託し、「キャリア発達支援の視点による、小中高 12 年間を見通した学習活動の充実改善」の主題で学校研究に取り組むことにした。この研究紀要では、この 2 年間、キャリア発達支援の視点で取り組んできた実践の中からいくつかを取り上げて報告する。

なお、「キャリア発達支援の視点による、小中高 12 年間を見通した学習活動の充実改善」の研究は、平成 26 年度から 3 年計画で取り組んでおり、今年度は一年次にあたる。

2. 研究を進めるにあたって

本校における児童生徒一人一人のキャリア発達を捉える視点を次のようにした。

「本校における児童生徒一人一人のキャリア発達を捉えるための視点」

- ・「キャリア」は、個人の内面において生まれて、発達し、変化するものであるため、児童生徒の行動の変容とあわせて、「内面」の変化を捉えていく。
- ・児童生徒の「キャリア発達」を促すためには、児童生徒一人一人が「自分が生きる社会をどう捉え、その中で自分をどう捉えているか」を把握し、より現実的なものに修正・更新できるようにしていくことが必要である。その際、教師の役割として、これまで本校で取り組んできた「知識と自己認識を探るための介入」と「知識と自己認識を修正・更新するための介入」を行う。（ここでいう「知識」とは「社会認識」と同義であると捉えている）

3. 研究の枠組み

（1）研究目的

今年度は、次の目的で研究を行う。

児童生徒のキャリア発達を促す教師の支援や授業のあり方を明らかにする。

また、これまでの学習内容や、その関連性、系統性および学部間の連携、地域との連携等について検討する。

（2）研究内容

①児童生徒のキャリア発達を促す授業実践の充実改善

【小学部段階におけるキャリア発達を促す授業実践】

低学年は「自分の好きなことや得意なことを見つけ、楽しく主体的に活動する児童」、高学年は「自分の役割を知り、その役割を主体的に果たそうとする児童」になってほしいと願い、授業作りに取り組み、キャリア発達の視点でよりよい活動内容のあり方や教師の支援、環境設定について検討を行う。

また、地域の外部講師を招き、専門的知識を生かした新しいアイデアを活動内容に取り込んだり、地域の人と関わる経験を通して児童のコミュニケーション能力を高めたりすることをねらいとして、実践を行う。

【中学部段階におけるキャリア発達を促す授業実践】

中学部では、生徒のキャリア発達の中でも、「仲間と協力して一つの活動に取り組み、成し遂げる」「自己の意思を表現し、主体性を持って活動する」「社会生活や“働く”生活に対する関心と意欲を持つ」ことが特に大切であると捉え、学校生活全般を通してこれらの点を意識した授業実践を進める。

授業作りにおいては、「集団で取り組み、達成感を感じられる活動の設定」、「様々な活動における自己選択、自己決定、自己評価の場面の設定」、「生徒たちの生活や学習活動につながる形での“職業・勤労”に関する学習の実施」に重点を置いて取り組む。

【高等部段階におけるキャリア発達を促す授業実践】

学校から社会へ移行するための準備期間ともいえる高等部段階のキャリア発達支援の内容としては、生涯にわたる生き方にかかわるプロセスを視野に入れつつも、進路指導の充実と授業改善の試みが主なものになると思われる。

今年度は、次に挙げる「中学部・高等部 6年間の進路指導の充実改善」と「キャリア教育を柱とした『作業学習モデルプラン』の開発」の取り組みを行う。また、社会における自分の果たす役割について考えることを目標とし作業製品の納入先等の方を外部講師とした授業を行う。さらに、自分や他者を大切にしながら成長していくことを目標に、思春期保健相談士を招いた保健指導を行っていく。

② 中学部・高等部 6年間の進路指導の充実改善

小学部、中学部、高等部の各部での授業実践に加え、学部を越えた取り組みとして、今年度は進路指導の充実改善に取り組む。中学部・高等部の全教員で、中高 6年間を見通した進路指導計画を検討、作成し、それに基づいて実践を行う。

中学部では、教育課程上に職業・家庭科を位置づけて実践を行うとともに、中学部 3年生の就業体験に関わる一連の取り組みを高等部と連携しながら行う。高等部では、就労移行支援事業所における「就労アセスメント実習」及び事後のケース会議を実施する。

③ キャリア教育を柱とした「作業学習モデルプラン」の開発（高等部）

大学、大学生協と協同した実践的作業学習を展開する。具体的には、金沢大学附属図書館医学図書館に「プラタナスカフェ」を開設する。

また、障害のある社会人と共に働きながら学ぶ作業学習を展開する。具体的には金沢大学が雇用する障害のある社会人 2名とジョブコーチが本校に出向し、生徒と共に本校の環境整備作業を行う。

(3) 研究体制

今年度の研究体制は、図 I - 1 に示したとおりである。

- ・小学部、中学部、高等部の研究推進委員による研究推進委員会を設置し、全体研究会、拡大研究推進委員会、各部の研究会、中学部・高等部合同の研究会を実施する。
- ・本研究を着実に実施するため、民間事業者、労働・福祉行政機関等による研究協力者会議を設置するとともに研究助言者を置く。
- ・「中高 6 年間の進路指導の充実改善」の取り組みの成果を上げるために、高等部に進路指導サポーター1名を配置する。高等部では障害者就労移行支援事業所と連携したキャリアカウンセリングや「就労アセスメント実習」、評価を実施する。また、中学部では新設する職業・家庭科の指導を中心とした進路指導、高等部の進路指導との連携、現在中学部3年生で実施している就業体験の内容の充実を図る。
- ・「作業学習モデルプラン」の取り組みで、「プラタナスカフェ」と環境整備作業における技術指導等を行うために、それぞれの作業に作業学習サポーターを配置する。

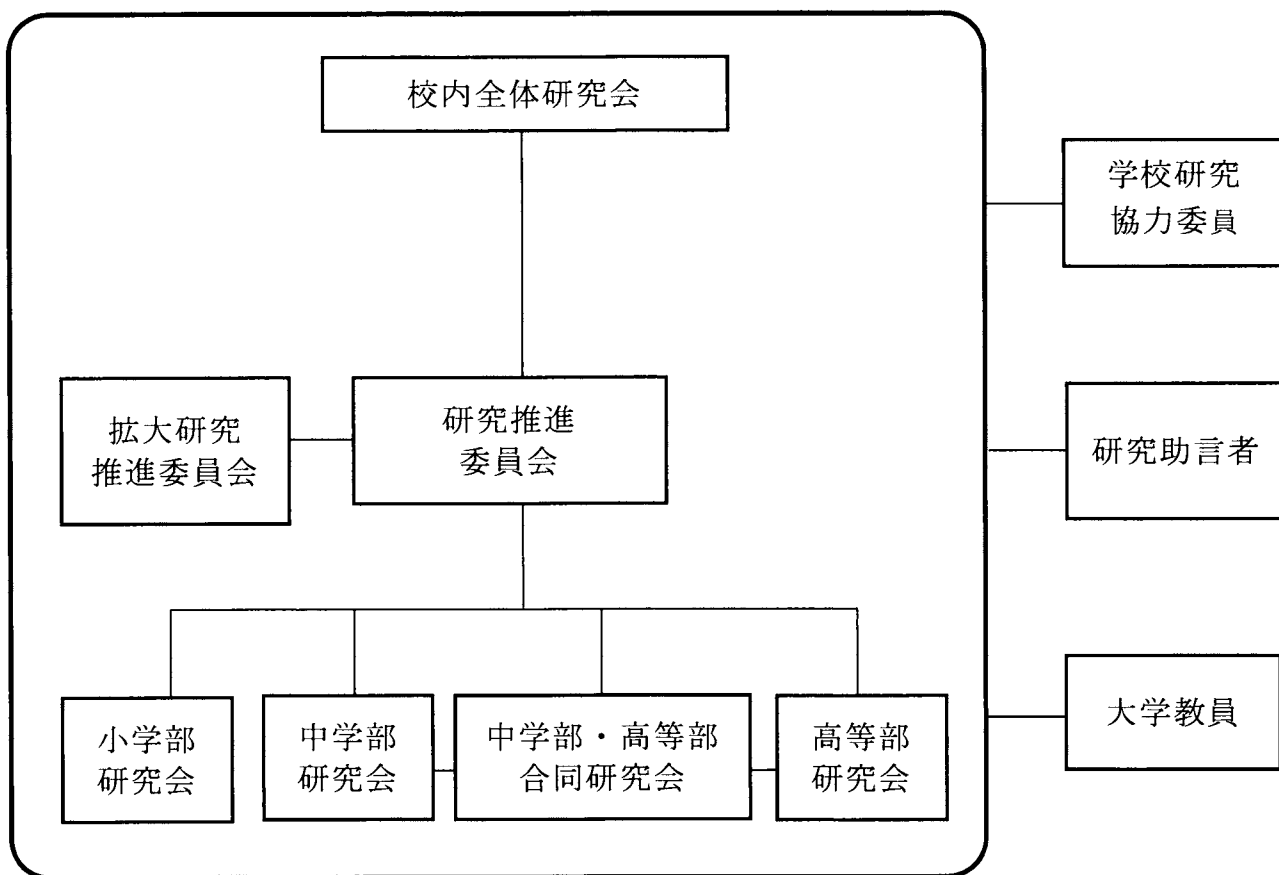


図 I - 1 平成 26 年度の研究体制

(4) 研究計画

今年度の研究計画は、表 I-1 のとおりである。研究を進めるにあたっては、表 I-2 のように研修を行う。また、本校の研究成果を発表する機会として、平成 26 年 8 月に「研究フォーラム」、平成 27 年 2 月に「教育研究会」を行う。

表 I-1 平成 26 年度の研究計画

月	学校全体		各学部
	会議・研修等	研究会	
4月		<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会 ・拡大研究推進委員会 ・全体研究会 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究会
6月		<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会 ・全体研究会 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究会 ・中高合同研究会
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協力者会議 (研究助言者・学校研究協力委員来校) ・キャリア教育研修 ・職員研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究会 ・中高合同研究会
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究フォーラム ・出張報告会 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会 ・全体研究会 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究会
9月			<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究会
10月			<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究会 ・中高合同研究会
11月		<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会 ・拡大研究推進委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究会
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究会
1月		<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究会 ・中高合同研究会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究会 (研究助言者・学校研究協力委員来校) ・出張報告会 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究会
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協力者会議 (研究助言者・学校研究協力委員来校) ・キャリア教育研修 (研究助言者来校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会 ・拡大研究推進委員会 ・全体研究会 	

※研究授業は各学部で計画立案し行う。

表 I - 2 平成 25・26 年度の研修

年月	テーマ	講師
平成 25 年 11 月	「キャリア発達を促す教育」の 理念と知的障害教育における 在り方	北海道札幌稲穂高等支援学校 校長 木村 宣孝 氏
平成 26 年 2 月	キャリア教育とキャリア発達支 援の意味 ～キャリア発達を支 援することを通じた学校改革～	京都市教育委員会 指導部 総合育成支援課 専門主事 森脇 勤 氏
平成 26 年 5 月	福祉制度の仕組みとアセスメン トについて	NPO 法人 LIAISON 理事長 中山 肇 氏
平成 26 年 7 月	障害者の性被害について (保健指導)	まき助産院 助産師・思春期保健相談士 川島 真希 氏
平成 26 年 7 月	“言葉”と“数”の獲得過程と 指導について	金沢大学人間社会研究域学校教育系 教授 吉川 一義 氏
平成 26 年 8 月	特別支援教育との接点を求めて ー障害児・者支援の原点ー	仙台市泉区保健福祉センター 障害高齢課 障害者支援係長 矢本 聡 氏
平成 26 年 12 月	重度知的障害者は貴重な企業戦 力(保護者向け研修) 優良人材育成に向けた教育への 期待(職員向け研修)	(株)三越伊勢丹ホールディングス特例子会社 (株)三越伊勢丹ソレイユ 代表取締役社長 四王天正邦 氏
平成 27 年 2 月	キャリア発達の視点から教育活 動を捉え直す	青森県教育庁 学校教育課 特別支援教育推進室 指導主事 菊地 一文 氏
平成 27 年 3 月 (予定)	本校の諸課題の解決に向けて (ワークショップ型研修)	北海道立特別支援教育センター 所長 木村 宣孝 氏

※8月の研修は、研究フォーラムの中で行う。2月の研修は、教育研究会の中で行う。

注

- (1)「自己実現」とは、自分の目標の実現に向けて持っている能力を発揮しながら努力し成し遂げることである。
- (2)「既有知識」とは、児童生徒の現在持ち得ている知識のことである。
- (3)「自己認識」とは、何ができて何ができないのかという自分自身に関する知識のことである。
- (4)「自己効力感」とは、自分はこのことは確かにできるという根拠のある自信のことである。

参考文献

1. 本校研究紀要 平成 24 年度
2. 吉川一義 (2011) 平成 22 年度本校教育研究会 シンポジウムにおける発表資料
3. 吉川一義 (2014) 平成 26 年度本校研究フォーラム パネルディスカッションにおける発表資料
4. 中央教育審議会 (2011)「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (答申)」
5. 木村宣孝 (2013)『『キャリア発達を促す教育』の理念と知的障害教育における在り方』本校職員研修資料
6. 木村宣孝 (2013)「特別支援学校知的障がい教育校におけるキャリア発達の支援について」. 第 48 回全国特別支援学校知的障害教育教頭研究大会北海道大会 特別講演記録
7. 菊地一文 (2012)「キャリア発達の視点から教育活動全体を見直す」.「実践障害児教育」2012 年 1 月号 学研教育出版
8. 菊池武剋 (2009)「問題提起 キャリア教育の目的と課題 学校種別の構造化と生涯にわたる支援の枠組み構築が必要」. *Between* 2009 年夏号 進研アド
9. 渡辺三枝子 鹿嶋研之助 若松養亮 (2010)「学校教育とキャリア教育の創造」学文社